

OPINION

金融サービスは、確実にスイスで最も有名な産業のひとつで、とくにプライベートバンキング、再保険、商品取引の3分野を得意とする。プライベートバンカーは、主にチューリッヒとジュネーブに集中し、世界で国境をまたぐ富

ナヒゲーター

(母国以外の銀行に預金する個人資産)の約4分の1を管理する。再保険業は、有価証券引き受けやリスク引き受け業務の両方において、チューリッヒが世界の一大拠点となっている。
スイスは世界最大の商品取

日本への期待
世界各地から

其 10

互いによく観察しながら学習を

引拠点である。世界市場での占有率は石油で35%、金属で60%、砂糖と穀物で50%程度と想定される。国内で大規模会社の大半は、トラフィグラ、ガンバー、マーキュリア、グレンコアなどの商品取引業者である。これらの大半はジュネーブやツークに本社を置くが、10年前は無名企業であった。

スイスの「複雑性」と富

情報技術産業(ICT)のクラスターはこの2〜30年間に重要性を増し、今では明らかに国内トップ産業の一つとなっている。光学式マウスはローザンヌ近辺に本社がある、70年代から80年代にかけてスイス国内のIT企業であったロジテック(日本名は、ロジクール。現在はスイス・米国内企業)が最初に製品化した。

チューリッヒのIBM研究所は1956年に開設され、複数のノーベル賞を生み出した。時をへて、ほかの大手もスイスに研究拠点を設け、クラスターを形成した。グーグルは、チューリッヒに米国外

で最大の開発研究所を有する。ソフトウェア、インターネット、ITサービスの部門は生き生きとして、AIからフックチェーンまでの関連技術でヨーロッパ最大の起業シーンを築くことができる。

スイスで、あるいはスイスと事業展開を決定したら、それを新たな事業の立ち上げや企業買収で行うにしろ、当然だが次の問いは、スイスで、スイス人に研究拠点を設け、クラスターを形成した。グーグルは、チューリッヒに米国外で最大の開発研究所を有する。ソフトウェア、インターネット、ITサービスの部門は生き生きとして、AIからフックチェーンまでの関連技術でヨーロッパ最大の起業シーンを築くことができる。

る。
会社設立は比較的簡単で、ヨーロッパ大陸の多くの地域よりも容易だ。社員を雇い、必要であれば解雇することも無理なく直ちに実施できる。労働市場は非常に柔軟だ。ただしビジネスに関して困難な面もある。事業所建設の許可を得るには、時間が必要となる。人材面では、日本人管理職はスイス人とのやりとりが困難なことが多いだろう。同じスイスでもドイツ系とフランス系の地区で事業の文化・習慣が異なり、日本とはかけ離れるからだ。単純にいうと、スイス人は「アメリカのプラグマティズムが混ざったドイツ人」と定義されがちである。つまり、スイスの一般社員や専門職は、お世辞にも上意下達に従うとはいえず、上司との距離をあまりとらない。スイス人は日本人に比べ、個人主義的だし、くだけた態度で不確実性に対して寛容な傾向がある。その点においてドイツ人とよく、そしてある程度アメリカ人と似ている。

【リーム中産連】
(月曜日に掲載)